

連携 301	19世紀 変化する社会とオペラ			
	【定員】200名 【受講料】2年会員 7,690円 1年会員 8,530円 聴講生 11,040円			
	【連携（昭和音大）】講座 【時間】毎回10時30分～12時00分（計6回）			
概要	長い伝統を持つヨーロッパのオペラは、19世紀に急速に進行する社会変革をたくましく吸収しながら、時代に合った豪華な花を咲かせました。今回の講座では、この時代の文化の新たな担い手になったブルジョワ階級とオペラの題材の関係に注目し、その観点からいくつかの作品を紹介します。			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	10/14(火)	昭和音楽大学 南校舎 ユリホール	ブルジョワの台頭とオペラの題材・作風の変化	昭和音楽大学 客員教授 小畑 恒夫
2	10/21(火)		マスカーニ《友人フリッツ》1891	昭和音楽大学准教授 森田 学
3	10/28(火)		休 講	
4	11/25(火)		J. シュトラウス《こもり》1874	昭和音楽大学講師 中村 仁
5	12/9(火)		ヴェルディ《ルイーザ・ミラー》1849	昭和音楽大学 客員教授 小畑 恒夫
補講	1/6(火)	昭和音楽大学 南校舎 C511	フンパーディンク《ヘンゼルとグレーテル》1893	昭和音楽大学 准教授 石川 亮子
6	1/20(火)	昭和音楽大学 南校舎 ユリホール	演じる立場から 歌と芝居の関係について（歌唱付）	昭和音楽大学 講師 光岡 暁恵

※変更（10/27）：講師体調不良により、10/28（火）は休講となりました。

※変更（11/7）：10/28の補講は上記のよう開講します。